

2020年3月30日

2019年度第2回 学校関係者評価委員会 議事録

学校法人山口学園
ECC国際外語専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人山口学園ECC国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき2019年度第2回学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

1 実施日時 2020年2月22日(土) 14:00 - 16:00

2 実施場所 ECC国際外語専門学校 1号館4階 401教室

3 学校関係者評価委員

(1) 外部委員【関連業界等関係者「同第12条第1項(1)」】

委員長	塩谷 典子氏	株式会社TEI 大阪支店 支店長
	三橋 滋子氏	一般社団法人 日本添乗サービス協会 会長
	下西 由子氏	大阪セントレジスホテル株式会社 ラニグ アド ディバロップメント スーパーバイザー
	小椋 圭一朗氏	社会福祉法人日本ヘレンケラー財団 副理事長
	西出 由佳氏	株式会社Kスカイ 旅客・営業部 マネージャー
	原 清治氏	佛教大学 副学長【欠席】

外部委員【高等学校関係者「同第12条第1項(4)」】

	貴治 康夫氏	立命館高等学校 教員
	中上 隆雄氏	済美地域社会福祉協議会 会長【欠席】

(2) 本校関係者

瀧山 淳一	ECC国際外語専門学校	学校長
大谷内 圭	ECC国際外語専門学校	副学校長・教務課責任者
伊藤 功	ECC国際外語専門学校	進学指導センター センター長
木村 泰一	ECC国際外語専門学校	日本語学科長 留学生事業部責任者
川添 雅英	ECC国際外語専門学校	留学生事業部副責任者
東井 喜美	ECC国際外語専門学校	教務課副責任者
山本 静香	ECC国際外語専門学校	英語課
福本 雄三	ECC国際外語専門学校	進路指導課責任者
岡 恵一郎	ECC国際外語専門学校	学園広告広報課責任者
三木 武志	ECC国際外語専門学校	学園自己点検評価室長
山本 昂輝	ECC国際外語専門学校	進路指導課

4 報告内容

(1) 開会挨拶【瀧山】

- ・現在大学編入コースの募集がピークに差し掛かっている。
- ・新型コロナウイルスの国内感染拡大を受け、留学プログラムや大規模イベント実施については大阪府の指示を仰ぎながら進めている状況。募集面にも影響が出ている。
- ・高等教育修学支援新制度について、昨年9月に認可を受けた。運用は今年の4月からとなっており、文部科学省、大阪府、日本学生支援機構の指示に従って学生受け入れの準備を進めている。
- ・高等教育無償化の申請にあたっては、学校関係者評価委員会等を通じて、外部の方の意見を運営に反映させていくことも判断基準になっている。その為当委員会においても、学校の進んでいる方向性や取り組みについて、委員の皆様より意見を頂戴したいと考えている。
- ・(組織概要については、パワーポイント資料を用いて説明。)
全部で10学科認可を受けており、入学者1035名 在籍者1933名。その内715名が留学生。

(2) 2019年度第1回学校関係者評価委員会検討事項の対応について【各課責任者】
(パワーポイント資料等に基づき説明)

教務課【東井】

①保護者連携について

2019年度は教務課主催の保護者会と進路指導課主催の就職保護者会を同日に開催し、来校促進を図ったが、参加率の変化はなかった。次年度は電話での面談実施や保護者への情報共有を目的としたアプリを開発し、保護者との連携を強化していく。

②授業評価について（アンケート）

2019年度は学生アンケートの実施回数を2回から4回に増やすことで、授業精度の向上を図ることができた。2020年度はアクティブラーニング導入に向けてICT機器等設備を強化する。

③授業担当コマの統一について

常勤教職員による授業担当比率を上げ、より授業精度が高まるよう時間割設定を行った。2020年度に向けては、より具体的な授業担当コマ数基準を設定し、コース毎で異なっている授業担当コマ数の差を無くしていく。

英語課【山本静】

①TOEIC・英検

2019年度のTOEIC、英検実績を報告。英検2級については過去最高の合格者が出る見込み。次年度に向けてはTOEICを学期末試験評価に加えることで、受験率向上を図る。

②新カリキュラム

2019年度においては、文科省の学習指導要領改訂に伴い、英語の新カリキュラムを構築した。また講師を対象に英語の新カリキュラムについての説明会を行った。新カリキュラムにおいては、従来の4技能に発信力を加えた、5技能統合型のカリキュラムとなっている。2020年に1年生カリキュラム改訂、2021年に2年生カリキュラム改訂、2022年より全生カリキュラムの改訂を予定している。

③2019年度留学の振り返り

留学に行く学生の増加に伴い、2019年度よりJCSOS「海外留学生安全対策協議会」に加盟し、リスク管理を徹底した。2020年度は留学コーディネーターの増員、危機管理体制の構築、安全対策のさらなる強化を行う。

質疑応答

- 質問【貴治委員】
英語の新カリキュラムについて、授業にネイティブ講師は入るのか？
- 回答【山本静】
週4回の授業の内、週2回各20分、ネイティブ講師が入り授業のサポートを行う予定。
- 質問【西出委員】
英語の新カリキュラムにおいて、発信力をポイントにしているがハードルの高さを感じる。どの様にして学生はスキルを身につけていくのか？
- 回答【山本静】
話すことへの緊張を無くし、情報発信することの楽しさや他者の意見を聞くことの大切さを授業を通して伝えていきたい。
- 質問【西出委員】
留学に参加する学生は増えているのか？
- 回答【山本静】
年々増えている。特に本学では、プライベートレッスン比率が高いセブ島への留学に参加する学生が多い。次年度はさらに参加枠を増やして実施する予定。
- 質問【小椋委員】
ICT機器等設備の強化について、具体的な案はあるのか？
- 回答【東井】
i p a d等の端末機器を、現在の3倍ほど増やす予定。将来は全学生数分の導入も検討している。
- 意見【小椋委員】
学生アンケートの実施機会を増やしたのは良い試みだと考える。また、留学におけるリスクマネジメントについても良い取り組みだと思う。
- 質問【下西委員】
TOEICを学期末試験評価に加える件について、点数の高さで評価するのか、それとも伸び率で評価するのか？

- 回答【山本静】
授業クラスによって評価基準は若干異なるのが現状。一概に点数で評価することではなく、伸び率も評価基準の一つとして考えている。ただし、高い点数ほど高評価に繋がる可能性は高い。

- 質問【下西委員】
5技能統合型授業について、どの様に学んでいくのか？

- 回答【山本静】
1回の授業ですべての技能を補うのではなく、1つのテーマに基づき複数回の授業を通して5技能を学んでいく。

- 質問【三橋委員】
学生アンケートはどのような内容か？

- 回答【東井】
大きく分けて、授業内容を評価する授業アンケートと設備等に関する学校アンケートの2つ。授業アンケートについては、担当講師と内容を共有することで授業改善に向けて取り組んでいる。学校アンケートについても可能な範囲で対応している。

- 質問【三橋委員】
保護者連携とは具体的にどの様に取り組んでいるのか？

- 回答【東井】
年間2回保護者会を開催し、学生の状況を伝えている。

進路指導課【福本】

①語学系コースの進路先拡大と企業連携

語学系コース生の就職先は多岐に亘るが、その約8割が接客職となっており、商社やメーカー等一般企業に就職する割合が低い。そこで、語学系コースを対象とした教育課程編成委員会を開催し、商社／物流企業担当者の意向をカリキュラムに反映し、業界就職への足掛かりとするよう努める。

②卒業生の状況把握

2019年度は、卒業生を採用頂いた企業を対象に卒業生アンケートを実施するとともに、11月には校友会を実施した。次年度は継続的に卒業生アンケートを実施することで状況把握に努める。また、校友会以外の行事イベントへの参加誘致を図り、卒業生が気軽に足を運ぶことができる環境づくりに注力する。

進学指導センター【伊藤】

①卒業生による在校生支援について

2019年度は卒業生による個別相談の機会を増やしていくことができなかった。次年度は個別相談を夕方のみに限らず実施していく。また、大学のティーチングアシスタントの役割を担ってもらうことも検討中。

②人間力育成プログラム

受験指導に偏らないよう、人間力育成を目的としたプログラム（J a i c a 訪問、大阪市立図書館見学等）を取り入れた。しかしながら、まだまだ実施数は少なく、今後は留学生との国際交流等の新規企画を予定している。

③外部意見の反映について

大学編入における編入先のカリキュラムや試験情報の収集を目的に大学へ訪問し、情報交換を行った。今後は関西のみならず、西日本、関東の大学との情報交換を実施していく。

質疑応答

- 質問【貴治委員】

一般企業への就職について、具体的に目指す企業はあるのか？

- 回答【福本】

まずは業界の情報収集することから実施している。現状においては、目指す企業を特定していない。

- 意見【貴治委員】

校友会について、微増ではあるものの参加者が増加しているのは良い傾向だと感じる。

- 質問【貴治委員】

大学の一般入試体制の変更は、編入試験にも影響するのか？

- 回答【伊藤】

入試についてはもともと人物重視の傾向にあり、一般入試の体制変更により編入試験が影響を受けることは、可能性としては低いと考えている。

- 意見【西出委員】

進路指導課の取り組みについて、一般企業に関心を持たせる取り組みは、とても興味深い。また、校友会等を通じて、卒業生を大切にされている学校だと感じており、企業側としても大変ありがたく思う。進学指導センターの人間力育成への取り組みは、学生の将来の可能性を広げるうえで有効な取り組みだと考える。

- 意見【小椋委員】

語学系コース生の教育課程編成委員会開催は良い取り組みだと考える。一般企業の仕事内容のイメージがつかない中で、直接企業より意見を聞ける場はとても貴重だと思う。また、進学指導センターにおける卒業生の個別相談は良い機会。もっとその機会が増えるよう工夫してほしい。

- 意見【下西委員】

卒業生アンケートの実施は、企業と学生のマッチングにも繋がるため良い取り組みだと感じる。また、進学指導センターにおける卒業生による在校生支援は、卒業生が負担にならないのであれば、大変興味深い取り組みだと思う。

• 意見【三橋委員】

新卒採用において、企業と学生の間でミスマッチが起きることの無いような仕組みがあれば、企業側としてもありがたい。その為、語学系コース生の教育課程編成委員会開催の取り組みは素晴らしいと感じる。

留学生事業部【川添】

①インターンシップについて

留学生専門課程では、専攻毎にインターンシップを実施している。ビジネス系専攻では課題解決型のインターンシップ、観光系専攻では現場体験型インターンシップを実施している。次年度に向けて、課題解決型インターンシップの課題であるパートナー企業不足と企業側の負担を考慮してプログラムを練り直している。現場体験型インターンシップでは単純労働とならないよう、業務内容と学生の就職を念頭に置いてインターンシップ先を決定していく。

②Buddy Program（日本語交流プログラム）について

2019年度は昨年に比べて参加者が増加した。また実施イベントにおいては、日本語会話だけでなく日本人との交流を推進して実施した。次年度はより参加しやすい環境を整えるよう、若手スタッフの導入や学生発案のテーマを取り入れる予定。

質疑応答

• 質問【貴治委員】

課題解決型インターンシップにおける企業側の負担軽減について、具体例を教えてください。

• 回答【川添】

企業が学校に来校される回数を、従来の半分まで削減する予定。

• 質問【貴治委員】

観光系専攻の学生は日本での就職を目的に入学するのか？

• 回答【川添】

入学時に日本で就職を希望するか確認している。その為多くの学生は日本国内で就職するが、中には卒業後帰国する学生もいる。

- 質問【西出委員】
留学生について日本人学生との違いはあるか？
- 回答【川添】
文化、慣習的な違いから、企業側と留学生で認識のズレが生じることはある。
- 質問【西出委員】
ビジネス系専攻の主な就職先は？
- 回答【川添】
学んだ知識を活かせる、貿易業、商社、メーカーへの就職を目指している。
- 意見【小椋委員】
日本で働く上でのマナーや知識の習得は不可欠だが、留学生の文化／慣習も尊重してあげる必要がある。留学生と接するスタッフもそのような意識を持つことが大切。
- 質問【下西委員】
ビジネス系専攻のインターンシップ先は、就職に関連した企業か？
- 回答【川添】
就職に関連した企業で実施をしたいが、現状できておらず、数は少ない。
- 意見【三橋委員】
インターンシップから採用までの流れを確立できると、ミスマッチも少なくなると考える。また、近年の留学生は優秀であると感じる。

(3) 2019年度学校運営振り返り（募集・教務・進路）【各課責任者】

（パワーポイント資料等に基づき説明）

募集【岡】

2020年4月入学予定者の集客数、出願数について報告。
コースとしてはエアライン、韓国語、大学編入、総合英語コースの人气が高い。

教務課【東井】

授業アンケート結果、進級率、卒業率について報告。

英語課【山本静】

EIP参加者数、ELC訪問者数、英語スピーチコンテスト結果、セブ島短期留学の参加者数について報告。ELCについては、資格試験と関連したプログラムを増やすなどの取り組みを行い、訪問者数が増加した。セブ島への留学は、出発時期を2回に増やすことで参加者数を増やした。

進路指導課【福本】

内定状況、コース毎の特記事項、企業関連の取り組みについて報告。

2017.3卒生より3年連続内定率100%を達成しており、引き続き就職希望者全員の内定獲得を目指していく。

進学指導センター【伊藤】

進学決定状況について報告。難関大学への合格率、難関私立大学合格者数ともに昨年より向上した。しかしながら、国立大学への合格者は昨年から微減したため、次年度は対策講座を強化し取り組んでいく。

留学生専門課程【川添】

内定状況について報告。内定がゴールではなく、その後の就労ビザ取得までを考え取り組んでいる。今年度の動向として、商社への内定者が増加した。また就職希望者の2極化への対応が必要となった。

日本語学科・国際コミュニケーション学科【木村】

日本留学試験300点以上の合格者数、大学・大学院の合格実績、授業満足度アンケート結果について報告。授業満足度アンケートについては、当初の目標を上回る結果であり、授業オブザーブや講師を対象とした研修の成果が反映されたと考えている。

(4) 2020年度学校運営について【瀧山】

- ・「国際力×専門力×人間力＝国際派進路の実現」のスローガンに基づき、進路に強い学校、長く業界で活躍できる人材輩出に向けて取り組んでいく。
- ・英語力、専門力、就職力、進学力、人間力の5項目強化を目指していく。特に人間力強化については、学生会スタッフを活用し、学生主体での取り組みを増やしていく。
- ・次年度は第三者評価を受審し、2021年3月に情報公開を予定している。その為、自己点検評価や学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の内容を、学校運営や授業カリキュラムに反映していく。

- 3年制コース比率の拡大に向けて、国際エアラインコースに続きグローバル英語コースの募集を開始していく。
- AO入学運用の基準見直しに伴い、入試体制を見直していく。また、入学前からの教育を充実させ、指導体制を確立していく。

質疑応答

- 質問【貴治委員】
大学編入について、関東方面への受験者は増えているのか？
- 回答【伊藤】
徐々にではあるが、学生も目を向け始めている。
- 質問【貴治委員】
学生アンケートについて、教務課の授業力低下について原因は？
- 回答【東井】
非常勤講師・新任講師による授業担当比率が高く、学生との信頼関係構築が影響していると考える。
- 意見【西出委員】
資格取得に向けての取り組みはすごく充実しているが、取得後の能力維持へ向けたり組みが大切だと考える。
- 意見【小椋委員】
人間力強化について、学生主体での取り組みはすごく良いと感じるが、学校によるイベント等の仕掛けづくりも重要だと感じる。
- 質問【小椋委員】
第三者評価受審の費用は？
- 回答【瀧山】
70～80万程度、予算を計上している。
- 意見【下西委員】
企業側としてもスローガンに掲げている長く業界で活躍する人材育成にはとても共感する。また、人間力は社会においても重要なため、在学中から身につけることができるのは素晴らしい。
- 意見【三橋委員】
各項目について非常に細かく分析し取り組まれており、とても感心している。

(5) 総括【塩谷委員長】

- 各項目における実績が向上しており、スタッフの方の日々の努力の賜物だと考える。
- 個人的にはE L Cの参加者数増加に興味を持っており、学生が興味を持つ仕組みづくりを行っていると感じている。
- 本日の委員の皆様からの意見を、次年度運営に活かしてもらいたい。

(6) 閉会挨拶【瀧山】

- ご意見いただいたE L Cについては、次年度はさらに学生の作業スペース等の拡大を目指し、改装を予定している。
- 校友会については、サービス業に従事する卒業生も多く、開催日程を調整中である。卒業生と一体となって進んでいける学校を目指していく。
- 今後は教育の可視化に向けて、さらに教育の質を上げていく。
- 2019年度の学校関係者評価委員会は終了となるが、次年度以降も委員の皆様よりいただいた意見を、学校運営に反映していきたいと考えている。
- 次回開催日は、2020年9月5日（土）を予定。

ご意見、ご感想

• 貴治委員

最近では教育の可視化が話題になっている。その為そこに関わる方の努力が必要になっていく。その為にもこの様な委員会やネットワークを広げることは重要だと考える。

• 西出委員

一つ一つの課題に対して、時代の流れを考慮しどんな状況でも耐えていける学校づくりを目指してほしい。

• 小椋委員

こども英語コースの卒業生がどの様に活躍しているのか知りたい。

• 下西委員

学生1人ひとりと向き合っていて取り組まれていると感じる。引き続き取り組んでほしい。

• 三橋委員

オリンピックの影響もあり、今後はよりコミュニケーション力の高い人材が求められる。卒業生が活躍されることを期待している。

以上